

J A 自己改革推進レポート（J A 鳥取中央） 7月号

1. 鳥取県中部森林組合とJ-クレジットの売買契約を締結

J A 鳥取中央は鳥取県中部森林組合と、森林による二酸化炭素(CO₂)の吸収量を取引するオフセット・クレジット(J-クレジット)の売買契約を結んだ。J A 鳥取中央は同森林組合との契約第1号で、県内J Aでは初のクレジット購入となった。森林保全活動を通じて持続可能な農業と地域社会づくりにつなげる。J-クレジットは、対象の森林におけるCO₂の吸収量を算出し、企業間で売買する制度で、吸収量は国から委託を受けた調査機関が木の胸高直径や樹高、面積当たりの本数で試算する。同森林組合が3月10日に経済産業省から認定を受けたクレジット量486tのうち、10t分をJ Aで購入した。



J A 鳥取中央では、環境保全活動への取組をPRすることで、農作物の出荷や販売で付加価値の創出を期待し、同森林組合は、収益を間伐や植林などの森林整備に充てる。J A 鳥取中央の栗原隆政組合長は、「CO₂の排出量を最小限に食い止め、農業など1次産業の生産安定につなげたい」と話した。

売買契約を受け、J A 鳥取中央は県から「J-クレジットとつとりの森を守る優良企業」の認証も受けた。今後、水管理の徹底や環境負荷を軽減させる取り組みを加速させていく。

2. ドローンによる農薬散布（J A 鳥取中央ブロッコリー生産部）

J A 鳥取中央ブロッコリー生産部は、琴浦町でドローンによる農薬散布の実演会を開催した。完全自動走行で散布する、XAG社のドローンを使用し、60aで散布を実演し従来の動力噴霧器で3時間かかる作業を、ドローンでは準備を含め30分で終了し、農薬の適正散布や省力化などを確認した。



ブロッコリーなど園芸品目のドローンを活用した空中散布用薬剤は、去年の4種類から11種類追加され、計15種類にまで増えた。適用薬剤増に合わせ実演会が企画され、実際に殺菌剤を散布し、生産者、行政、J A職員ら30人で見学した。

J A 鳥取中央では、ブロッコリーの生産拡大を進めるため、スマート農業による作業の効率化や収量向上に取り組んでいる。作業の省力化と適期防除で栽培によるロスを減らし、出荷数量増につなげていく。ブロッコリー畑を提供した同部の寺岡昌一部長は「今回の防除効果を見極め、導入を検討したい。雨が降って地盤がぬかるんでいても防除できるのが魅力的」と話した。